

授業科目	地域看護学特論 Advanced Community Health Nursing	1.2 学年	前期	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎平澤則子 高林知佳子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【氏名】 川野英子 井上智代	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学		
【到達目標】 地域看護のコアとなる実践技術を、概念の明確化からアセスメント・施策化の一連のプロセスにおいて学習し、アドバンスド・レベルの能力を修得する。						
【授業概要】 一定の環境を共有する人々を対象とした地域看護学アプローチを、理論や学術研究を根拠にしなが ら学習する。特に、自然環境や、社会・文化的環境に影響を受ける健康課題を生活の中から読み解 き、国際比較をふまえて探究する。災害、水俣病などの国内外の事例を提示しながら進める。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1		講義ガイダンス	地域看護学方法論の到達目標、授業 概要、授業構成、授業スケジュール について		共同	
2～5	学生によ るプレゼ ンおよび 討議	地域看護の使命・概念	文献検討 1. 地域看護の歴史的変遷 2. コミュニティ 3. プライマリーヘルスケア 4. ヘルスプロモーション 5. ノーマライゼーション 6. アドボカシー など		共同	
6～9		地域看護の方法	文献検討 1. 地域看護アセスメントと計画・実 施・評価（ヘルスケアの課題と変遷 含む） 2. 個別相談援助、家族看護の理論 3. グループ活動、グループワークの 理論 4. 地域づくり、エンパワメントの理 論		井上 高林 平澤	
10・11		環境と地域看護	自然社会文化的環境と健康課題につ いて		高林 井上	
12・13		ヘルスケアシステムの概念	文献検討 1. ケアマネジメント 2. ケアコーディネーション 3. 地域ケアシステム 4. 在宅ケアシステムなど		川野	

14・15		地域看護活動の専門性	上記学習内容を統合し、地域看護活動の専門性、アプローチについて、学生はプレゼンテーションを行い、学生および教員で検討する。	共同
<p>【評価方法、評価基準】 授業への主体的参加を重視する。2/3 以上の出席に加え、クラス討議の参加状態（50%）、プレゼン資料（50%）。</p>				
<p>【テキスト】 なし</p>				
<p>【参考書・資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学総論 第2版, 日本看護協会出版会 (2015) ・アメリカ公衆衛生協会公衆衛生看護部会 (2003) : いま改めて公衆衛生看護学とは-定義・役割と範囲・規範, 日本看護協会出版会 ・コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際, 医学書院 (2007) ・ヘルスプロモーション 実践の変革, 日本看護協会出版会 (2008) ・その他、開講前に提示する。 				
<p>【受講、課題、資料配布等のルール】 オリエンテーションや配布資料による注意事項に留意する。</p>				
<p>【教員からのメッセージ】 これまで取り組んできた実践活動の振り返りをとおして学習課題を明確にし、問題意識をもって授業に臨みましょう。</p>				
<p>【オフィスアワー】 要予約</p>				

授業科目	地域看護学援助論 I Advanced Community Health Nursing I		1・2 学年	通年	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎平澤則子 高林知佳子 川野英子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【氏名】 井上智代 神田建史	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県福祉保健部医師・看護職員確保対策課			
【到達目標】 1. ヘルスケアシステムの成り立ちと現状を整理し、看護サービスの展開方法と技術開発を理解する。 2. 地域看護における倫理的課題への対応の方法を理解する。							
【授業概要】 国内外の文献検討及びフィールド・ワークを通して、地域看護活動の対象（個人、家族、集団、組織、地域）に対するアセスメントと健康課題の明確化、支援計画及び評価の実際について学び、効果的な支援方法と社会資源の開発について探究する。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
1	講義ガイダンス		地域看護援助論 I II の到達目標、授業概要、授業構成、授業スケジュール			共同	
2・3	学生によるプレゼンテーションと討議	地域を基盤とした個人・家族への看護サービスの展開方法と援助	家族を単位とする援理論をもとに、学生の地域看護の実践体験に基づく討論を組み合わせながら展開し、理解を深める。			平澤	
4・5		地域を基盤としたグループ支援、地区組織活動	グループ支援、組織化の理論と方法論をもとに、学生の実践体験に基づく討論を組み合わせながら展開し、理解を深める。			高林	
6・7		地域における倫理調整	1. 地域看護における倫理 2. 受講者の実践事例を検討し、保健師の倫理的課題と倫理にかなう意思決定プロセスを学ぶ。			平澤	
8・9		在宅ケアシステムの現状	1. 在宅ケアシステム、退院調整 2. 受講者の実践事例を分析し、在宅ケアシステムの現状とあり方を理解する。			川野	
10・11	講義	地域医療の未来への展開	1. 地域医療構想 2. 新潟県の地域医療の課題と方向性 3. 上記の考え方を理解し、地域の実情に合ったより良い地域医療をめざして看護の役割を考察する。			神田	
12・13	フィールド・ワーク	院生がテーマを設定し、フィールド・ワーク（地域活動におけるインタビュー演習）を通して、最新知見を基に地域看護活動の具体的方法について考察する。				共同	

14・15	学生によるプレゼンテーションと討議	まとめ	1. 効果的なプレゼンテーション資料の作成 2. 地域看護学の課題	共同
<p>【評価方法、評価基準】 授業への主体的参加を重視する。2/3 以上の出席に加え、クラス討議の参加状態（50%）、プレゼン資料（50%）。</p>				
<p>【テキスト】 なし</p>				
<p>【参考書・資料等】 開講時に提示する。授業の中で参考図書を紹介する。</p>				
<p>【受講、課題、資料配布等のルール】 課題に対する学生プレゼンテーションを受け、全員で討議する。プレゼンテーション資料は、発表当日に持参のこと。</p>				
<p>【教員からのメッセージ】 積極的な討議を期待します。地域で生活する人たちの QOL を高める援助について、院生の看護経験と文献を素材として一緒に考えましょう。</p>				
<p>【オフィスアワー】 要予約</p>				

授業科目	地域看護学援助論Ⅱ Advanced Community Health NursingⅡ		1・2 学年	通年	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎平澤則子 高林知佳子 川野英子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【氏名】 井上智代 室岡真樹 田村須賀子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県庁人事課 富山大学大学院			
【到達目標】 1. ヘルスプロモーションやコミュニティ・デベロップメントにおける看護の役割を理解する。 2. コミュニティを単位とした看護過程の方法と看護の役割を理解し、新潟県立看護大学研究の基盤とする。							
【授業概要】 集団・地域に対する理論の応用と援助方法について学習する。国内外の研究文献の購読や実践で出会う現象理解を通じて、新潟県立看護大学における重要課題について討論し、考察する。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
1・2	学生によるプレゼンおよび討議	コミュニティ・アセスメントの方法として、ニーズ分析から介入プログラム開発、評価までの一連の方法と看護の役割	1. コミュニティ・アセスメントの理論と方法論 2. 文献と実践体験を素材とした討論			井上	
3・4		ヘルスプロモーションやコミュニティ・デベロップメントにおける看護の役割	1. ヘルスプロモーションやコミュニティ・デベロップメントに関連する理論と方法論 2. 文献と実践体験を素材とした討論			高林	
5・6		コミュニティを単位としたコーディネート	1. コーディネーション理論と方法論 2. 文献と実践体験を素材とした討論			川野	
7 8・9	講義 討議	ケーススタディの理論と実践	1. 保健師活動とケーススタディ 院生の実践事例を素材とした討論			田村	
10・11	学生によるプレゼンおよび討議	CBPR・地域を基盤としたヘルスケアシステムの構築	「コミュニティを単位とした看護過程の現状を整理するとともに看護サービスの展開方法と技術開発」について討議する。			平澤 室岡	
12・13	講義、プレゼンテーション、討議	地域看護学領域における看護	文献検索、クリティークの方法、研究計画書の構成、研究論文の構成			共同	
14	プレゼンテーション、討議	研究プロセス	関心テーマの表明： 地域看護学に関する研究を系統的に文献検索し、研究的に明らかになっていることへの理解を深め、さらに研究上の課題を考察する。			共同	
15		まとめ	研究課題の明確化			共同	

【評価方法、評価基準】

授業への主体的参加を重視する。2/3 以上の出席に加え、クラス討議の参加状態（50%）、プレゼン資料（50%）。

【テキスト】

なし

【参考書・資料等】

開講時に提示する。授業の中で参考図書を紹介する。

国内外の看護学会に1回以上参加し、地域看護学研究の課題を探究する

【受講、課題、資料配布等のルール】

課題に対する学生プレゼンテーションを受け、全員で討議する。プレゼンテーション資料は、発表当日に持参のこと。

【教員からのメッセージ】

積極的な討議を期待します。地域で生活する人たちのQOLを高める援助について、院生の看護経験と文献を素材として一緒に考えましょう。

【オフィスアワー】

要予約

授業科目	地域看護学特別演習 Seminar of Community Health Nursing		1・2 学年	後期	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎平澤則子 高林知佳子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【氏名】 川野英子 井上智代	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学			
【到達目標】 自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。							
【授業概要】 地域看護学で活用される研究方法を学ぶ。学生は、地域看護領域の研究課題を明らかにし、応用できる研究方法の選択を行い、研究計画を進展させる。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
1	討議	特別研究・課題研究の確認	研究コースの専門領域特別研究の課題研究の目指すところを確認			共同	
2・3	討議	研究課題の検討	文献検討、専門学会等に参加して研究課題を見出す				
4	学生によるプレゼンと討議	研究課題の検討	作成した資料をもとに研究課題着想の動機と背景、地域看護学領域における研究の意義、研究の実施可能性を討論する			共同	
5・6		文献検索と整理、文献レビュー	文献リストの作成と整理			共同	
7～10		研究課題に関連する文献のクリティーク	クリティークを通して自己の研究課題を洗練化・焦点化していく				
11		研究計画書、倫理審査申請書の作成	研究計画書、倫理審査申請書を作成する			共同	
12・13		研究計画書、倫理審査書類の検討					
14・15		まとめ	研究計画書の修正 今後の課題と展望			共同	
【評価方法、評価基準】 授業への主体的参加を重視する。2/3 以上の出席に加え、クラス討議の参加状態（50%）、プレゼン資料（50%）。							
【テキスト】 なし							
【参考書・資料等】 授業に際し適宜、提示する。 国内外の関連学会に参加し、地域看護学研究の課題を探究する。							
【受講、課題、資料配布等のルール】 初回の授業開講時に説明する。発表資料は受講生、教員の分を準備して配布する							

【教員からのメッセージ】

専門的な図書や研究論文を正しく読み、研究計画書を作成しましょう。

【オフィスアワー】

要予約